

小学1年生の学童が有するアトピー性皮膚炎を 含めた皮膚病変の5年後の予後調査 ：広島県安佐地区での検討

出典	日本医師会雑誌(0021-4493)135巻1号 Page97-103(2006.04) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2006185208)
著者	岡野伸二 他
調査地域	広島県
調査時期	1992～1997年、1997～2002年
調査対象	1992～1997年：小学1年生 1997～2002年：小学6年生
有効回答数	1992～1997年：1327人 1997～2002年：1167人
診断方法	医師による診察
有症率	1992～1997年：13.6% 1997～2002年：9.2%
男女別有症率	1992～1997年：男13.6% 女13.7% 1997～2002年：男9.3% 女9.1%
調査概要	広島県にて1992～1997年にその年の1年生を皮膚科医が診察し、その児童たちが小学校6年生になった1997～2002年に再度診察を行うことで、アトピー性皮膚炎の有病率とその経時的変化を解析した。アトピー性皮膚炎の有病率は小学校1年生は13.6%であったが、小学校6年生では9.2%に減少していた。